

平成 30 年度 真庭市教育行政重点施策



平成 30 年 6 月
真庭市教育委員会

目次

1. 平成 30 年度真庭市教育基本方針・・・・・・・・・・1
2. 第 2 次真庭市教育振興基本計画体系図・・・・・・・・・・2
3. 重点施策の事業概要・・・・・・・・・・4
 - 1) 一人ひとりの可能性を広げる
 - 2) 真庭を愛する「ひと」をつくる
 - 3) 教育を地域で支える仕組みをつくる
 - 4) 暮らしの中にある豊かさを感じる心と体を育む
 - 5) 市長部局と連携して取り組む

「別表」 重点施策の事業概要

1. 平成 30 年度真庭市教育基本方針

真庭市は、「多彩な真庭の豊かな生活～真庭ライフスタイルの実現～」を目指し、「ひと」「まち」「市役所」が互いに高めあいながら、「地域資源が循環する持続可能なまちづくり」をそれぞれが主体性をもって進めることとしています。また、人口減少と高齢化が進む中、真庭市の永続的な発展の基礎づくりを「共育」の理念で進めていきます。

真庭市教育委員会は、真庭市総合教育会議などを通じて、市長と教育委員会との円滑な意思疎通を図るとともに、総合教育大綱並びに第 2 次真庭市教育振興基本計画を基に教育行政を推進していきます。

教育は豊かな人生を送るための能力獲得を最大限保障する、最も大きな社会的役割があります。

個性と能力を十分に伸ばし、互いにライフスタイルを応援しあう「共育」を真庭市の施策の基本的な方向性とし、教育施策についても、「協育」「郷育」「響育」の 3 つの視点から「共育」を推進していきます。

学校教育においては、確かな学力の育成を最重点課題としてとらえ、生徒の「語り合い」で「共」に「育」ち合う仕組みづくりを行います。学力調査と心理調査を活用した実態に基づく指導を教師の語り合いから改善し推進していきます。また、ICT を活用して子ども同士の対話を重視した授業の実施や学校・家庭・地域で子どもの将来を語り合い、地域と一体となって子どもを育てていきます。そして、地域総がかりで子どもを育て「協育」環境づくりをさらに充実するとともに、その機運醸成の一つとして、あいさつ運動を強化します。

真庭市が目指す連携型一貫教育については、育ちの連続性を担保するため、北房地域でのこども園、小学校、中学校との連携、さらに放課後の望ましい子どもの育ちとその環境づくりを地域参画により進め、これをモデルとして全市に広めていきます。

小・中学校の適正配置実施計画や給食施設整備計画については、近年の出生数の実態を踏まえ、各計画の再構築に向けて準備を進めるとともに、運営改善や施設整備・改修に努め、安全・安心で効果的かつ効率的な学習環境の整備に努めます。

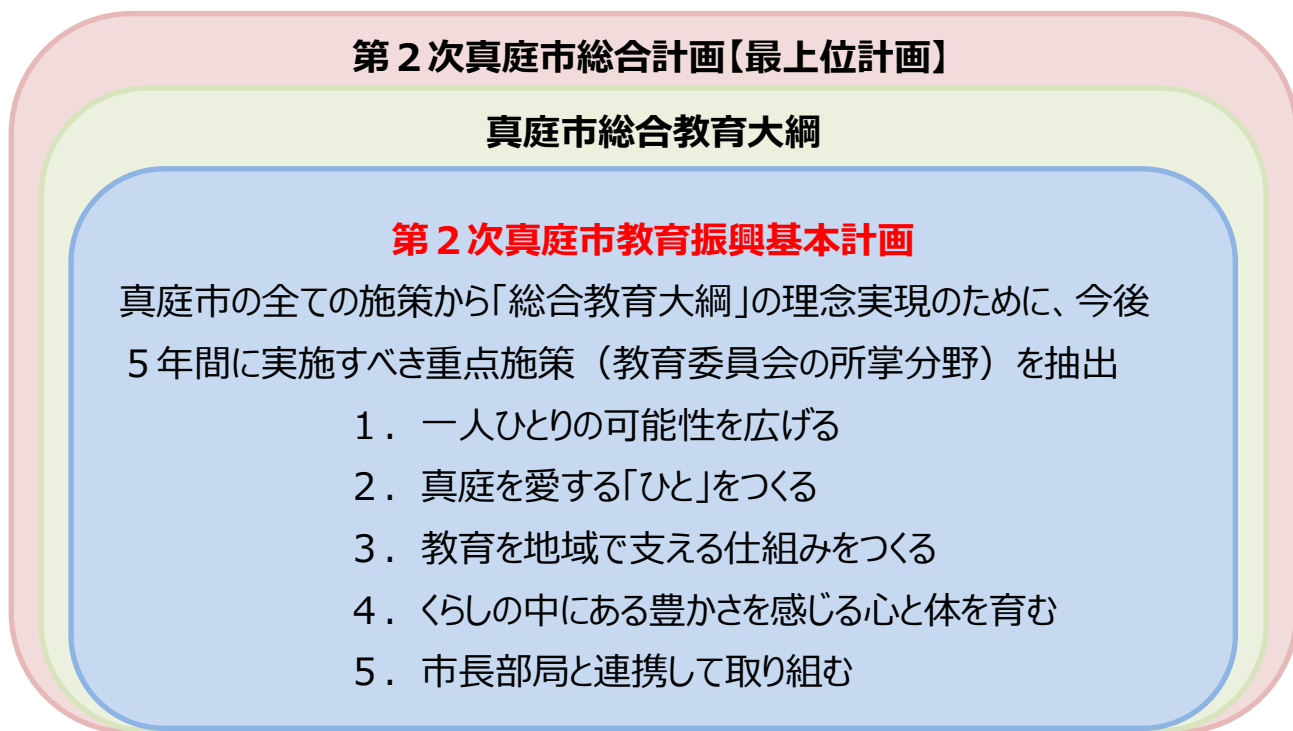
生涯学習においては、真庭市の「知と情報の拠点」となる中央図書館が平成 30 年 7 月に開館します。市民に親しまれる楽しい図書館づくりを目指し、ボランティアによる市民活動が進むよう努めるとともに、「図書館だより」の発行やイベントの開催等により、市民が本に親しむ気運を醸成し、「本の香りがするまちづくり」を推進していきます。

さらに、文化財の保護・保存とその活用を市民と考えるとともに、関係機関、地域社会などと連携して「郷育」を推進し、ふるさとを愛する「ひと」づくりに取り組みます。

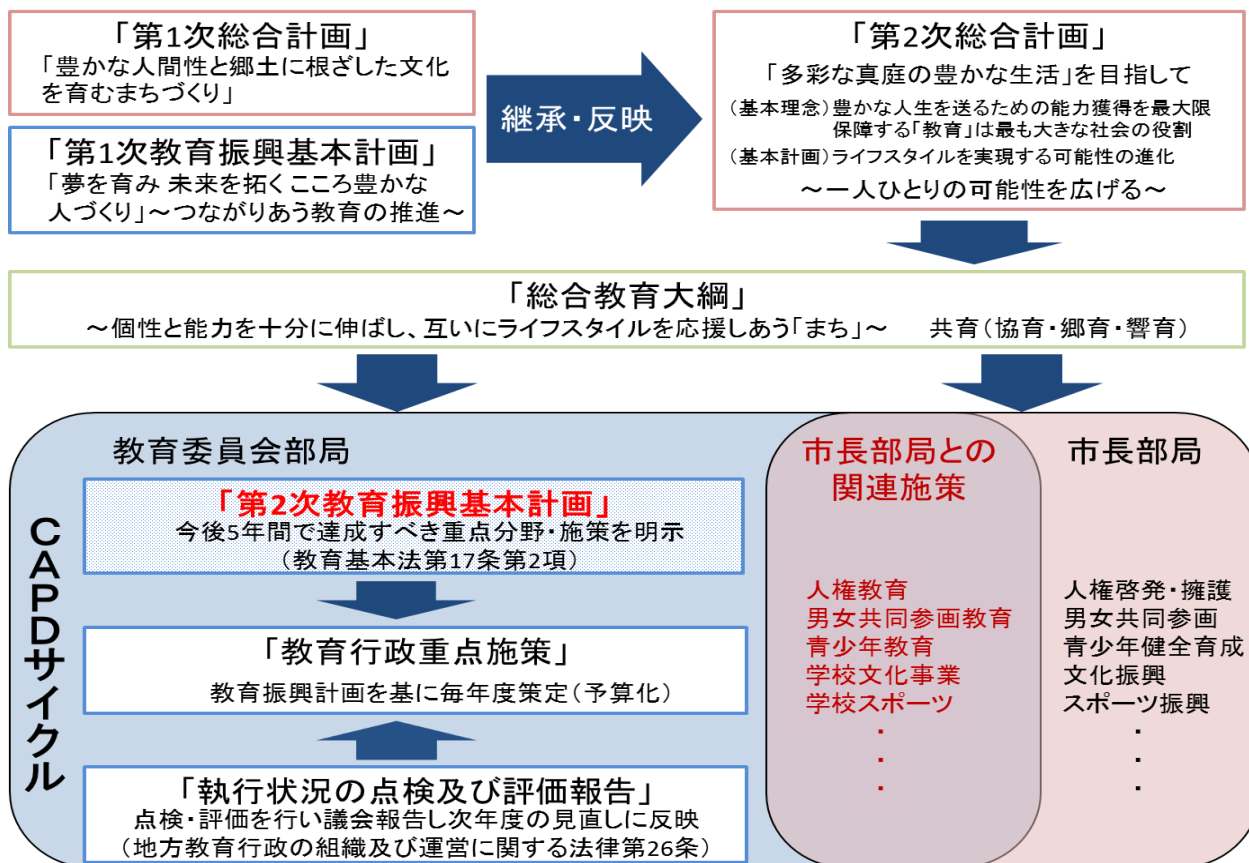
家庭・学校・園・地域が連携しながら、家庭教育の大切さについての啓発や支援のための取り組みを行うとともに、人権教育・啓発指針に基づき、人権尊重の精神に基づいた教育活動を展開していきます。

2. 第2次真庭市教育振興基本計画体系図

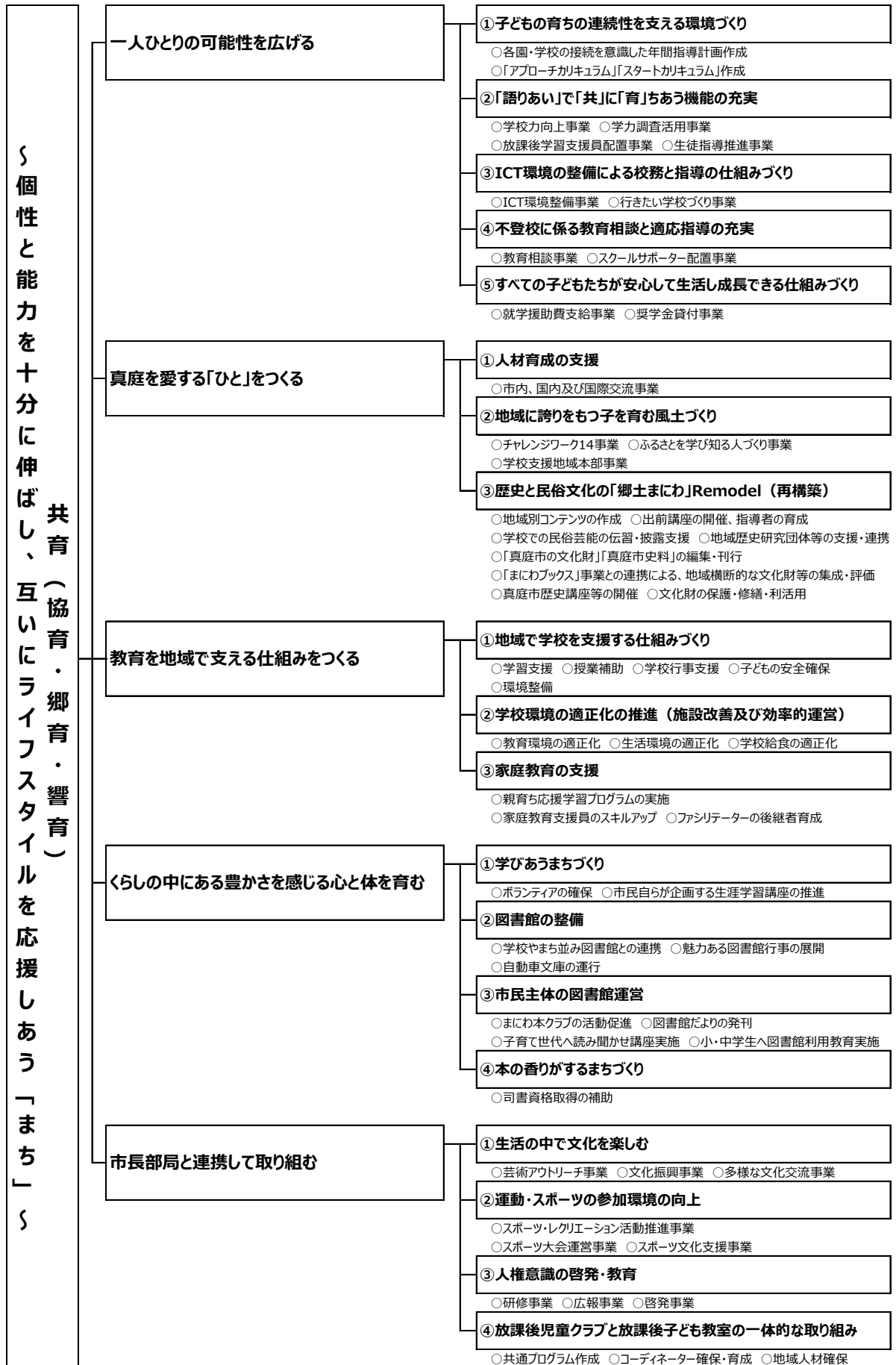
【概念図】



【関連図】



【重点施策体系図】



3. 重点施策の事業概要

1) 一人ひとりの可能性を広げる

【基本目標】

それぞれの価値観を互いに認めあい、市民の誰もが自らの可能性を十分に引き出し伸ばすためには、多彩で豊かな教育を受けることが必要です。

それを困難にしている様々な要因を解消し、大切な人権である「教育を受ける権利」を保障するために最大限の支援と真庭で学べる選択の幅を広げます。

【具体的な施策（別表参照）】

- ①子どもの育ちの連続性を支える環境づくり
- ②「語りあい」で「共」に「育」ちあう機能の充実
- ③ICT 環境の整備による校務と指導の仕組みづくり
- ④不登校に係る教育相談と適応指導の充実
- ⑤すべての子どもたちが安心して生活し成長できる仕組みづくり

2) 真庭を愛する「ひと」をつくる

【基本目標】

真庭市の暮らし方や価値を認識する土台となるのは、真庭市を知ることです。

地域のつながりを生かして地域文化を誇りをもって伝承しながら、市外からの評価を正確に受け止める知識と態度を養い、地域も人も成長するよう支援していきます。

【具体的な施策（別表参照）】

- ①人材育成の支援
- ②地域に誇りをもつ子を育む風土づくり
- ③歴史と民俗文化の「郷土まにわ」Remodel（再構築）

3) 教育を地域で支える仕組みをつくる

【基本目標】

安全安心な地域は、それぞれが認めあい関わりあうことによって支えられ、より高まっていきます。

世代を超えて互いを応援する教育を、教育施設の在り方も含めて真庭市で実現することで、地域の持続可能性を高めていきます。

【具体的な施策（別表参照）】

- ①地域で学校を支援する仕組みづくり
- ②学校環境の適正化の推進（施設改善及び効率的運営）
- ③家庭教育の支援

4) 暮らしの中にある豊かさを感じる心と体を育む

【基本目標】

市民の感受性と知性を涵養するための情報や機会・交流の場、さらに健やかな人生を暮らすための「健康づくり」に自ら取り組む環境を創出・提供し、多彩な豊かさや幸せを実感する人を増やします。

【具体的な施策（別表参照）】

- ① 学びあうまちづくり
- ② 図書館の整備
- ③ 市民主体の図書館運営
- ④ 本の香りがするまちづくり

5) 市長部局と連携して取り組む

【基本目標】

平成 26 年度の真庭市組織機構改革により、文化・スポーツの振興及び人権啓発・擁護の推進に係る事務は市長部局の所掌となっていますが、市総合教育大綱及び本計画において示した教育振興の理念と目標を共有し、それぞれの分野で策定された基本計画、実施計画等に従って、市長部局と教育委員会とが役割分担や連携手法等を明確にしつつ、相互に協力して事業推進を図ることとします。

【具体的な施策（別表参照）】

- ① 生活の中で文化を楽しむ
- ② 運動・スポーツの参加環境の向上
- ③ 人権意識の啓発・教育
- ④ 放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な取り組み

別表「重点施策の事業概要」

1. 一人ひとりの可能性を広げる				
①子どもの育ちの連続性を支える環境づくり				
基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度KPI	事業効果
<ul style="list-style-type: none"> 各学校園で、お互いに歩み寄り、育てたい子ども像の共有を図り、「何を、どのようにつなげていくのか」を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境を通して総合的に学ぶ幼児期の教育から教科の学習が中心である小学校教育への移行に課題がある。 円滑な接続を図るためには、保育者と小学校教員が「互いの保育・教育内容」を理解する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 接続・連携のレベル ①レベル4以上の小学校・園の割合：100% ②レベル5の小学校・園の割合：20%以上 <レベル> 5：十分に達成されている 4：かなり達成されている 3：そこそこ達成されている 2：あまり達成されていない 1：全く達成されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ①100% ②8% 	<ul style="list-style-type: none"> 「小1 プロブレム」の解消 学ぶ意欲の向上 主体的に学力の育成 育ちの連続性の確保
H30年度主要事業		事業概要		
<ul style="list-style-type: none"> 各園・学校の接続を意識した年間指導計画作成 教育課程に位置づけた交流の完全実施 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに基づき小学校区での保育園・幼稚園・こども園・小学校との参観授業、指導者間交流を実施。 			
<ul style="list-style-type: none"> 作成したカリキュラムの見直し 真庭市全体としての接続カリキュラムの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園・幼稚園・こども園・小学校の合同研修会を開催する。 作成したカリキュラムの見直しをし精度を上げる。 真庭市全体としてのカリキュラム作成 			
②「語り合い」で「共」に「育」ちあう機能の充実				
基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度KPI	事業効果
<ul style="list-style-type: none"> 客観データで可視化と共有を図り、教職員の語り合いを組織 調査を活用し指導の充実を図る、改善・検証サイクルを確立 セーフティネットの充実（放課後学習等の充実、教育支援センターの強化） 	<ul style="list-style-type: none"> 親和的な教職員集団の上に、具体的な指標をもった実証的な語り合いを充実させることが必要。 自己成長のマネジメントに実証性をもたせることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査結果で国語や算数の勉強が好きだと答える割合：平成33年度80%（H28:74%） 	<ul style="list-style-type: none"> 71% 	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上 学級満足度の向上 いじめの未然防止、早期発見 個に応じた学習指導の強化
H30年度主要事業		事業概要		
<ul style="list-style-type: none"> 学力学習状況調査結果に基づく改善サイクル 	<ul style="list-style-type: none"> 改善プランを作成し、点検・検証の改善サイクルを回す。OJTによる語り合いで、授業改善を進める。 			
<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導推進事業 	<ul style="list-style-type: none"> 市内全小中学校児童生徒対象に年に2回のQ-U検査（心理検査）を実施する。 早期に学級の状況を把握し、いじめや不登校、学級の荒れ等問題行動の未然防止、早期発見に努める。特にいじめについては、初期段階で見逃さず、欠席3日目までの早期対応を充実させる。 			
<ul style="list-style-type: none"> 学校力向上事業 	<ul style="list-style-type: none"> 市教委主催で指導要領の改訂を見据えて、小学校英語教育研修会、道徳教育推進教師研修会、情報教育研修会等を実施し、教職員の資質・能力及び指導力の向上に努める。 			
<ul style="list-style-type: none"> 放課後学習支援員配置事業 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後を主として課題に応じた補充学習等を行うため、小学校12校に17名・中学校6校に11名の放課後学習支援員を配置し、総計2,585時間の支援を行う。 			
③ICT環境の整備による校務と指導の仕組みづくり				
基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度KPI	事業効果
<ul style="list-style-type: none"> 学校教育にICTを溶け込ませ、校務と指導の平準化と充実 教育の情報化による学校教育を推進するシステムを整備 	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用が個々ばらばらになりがちで、教育活動との一元化が弱い。 校務や指導が個々の力量にゆだねられ、平準化を図る手立てが弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ毎日ICTを活用した校務と指導を行っている」と回答する教員の割合：平成33年度90% 	<ul style="list-style-type: none"> 81% 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの学力向上 教師の指導力向上 教員の負担軽減と子どもと向き合う時間の充実 保護者連携の強化 情報セキュリティの強化
H30年度主要事業		事業概要		
<ul style="list-style-type: none"> ICT環境推進事業 行きたい学校づくり事業 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書・デジタル教材を整備し、授業での活用を促進させ、授業改善を進める。 「真庭子ども育みネットワーク@スクール」構築により、校務情報を一元管理し有効活用することにより、学力の向上・子供たち一人ひとりへの教育の充実とセキュリティ向上・保護者サービスの推進を図る。 すべての普通教室にプロジェクター・実物投影機・スクリーンを整備しており、ICT機器の活用により授業改善を支援する。 			
④不登校に係る教育相談と適応指導の充実				
基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度KPI	事業効果
<ul style="list-style-type: none"> 不登校の初期対応を機能させ、欠席の長期化を防止 不登校支援を充実し、児童生徒の自己決定に基づく自立を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の不登校が増加している。しかし、歯止めがかかっていない。未然防止の充実と併せて、初期対応の充実を図るための施策充実が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 真庭市立小中学校の不登校出現率：平成33年度0.95%以下（H28:1.13%） 	<ul style="list-style-type: none"> 1.30% 	<ul style="list-style-type: none"> 長期欠席者の減少 関係機関のネットワーク強化 不登校出現率の減少
H30年度主要事業		事業概要		
<ul style="list-style-type: none"> 教育相談事業 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校など学校不適応に対応するため、児童生徒の実態に応じた自立支援と適応指導ができる指導体制を確立するとともに、教育支援センター（城北塾・白梅塾）との連携を進め、児童生徒の理解を一層深める。 教育支援センター、振興局での巡回相談を実施する。 不登校親の会「ひまわり」の開催等、相談の機会の充実を図る。 			
<ul style="list-style-type: none"> スクールサポーター配置事業 	<ul style="list-style-type: none"> 市内6中学校にスクールサポーターを配置する。 悩みを抱える生徒や精神的に不安定な生徒達への教育相談や不登校傾向の生徒への対応など実施し不登校の未然防止を図る。 			

⑤すべての子どもたちが安心して生活し成長できる仕組みづくり				
基本施策	現状と課題	重要業績評価指標（KPI）	H29年度KPI	事業効果
<ul style="list-style-type: none"> ・権利として援助が受けられる環境整備 ・独自援助の継続、拡充検討 ・潜在対象者の掘起しのための周知、PR ・返還時の支援制度拡充検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護世帯や就学援助世帯は増加傾向にあるが、真庭市奨学金の利用者は減少傾向にある。 ・援助を受けやすくするために、認定基準の見直しや返還期間の延長等の制度拡充が必要である。 ・就学援助対象者の所得での認定基準は、現在の率を維持する必要がある。 ・潜在対象者を掘り起こすための周知・PRが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①新規奨学金利用者数：現在の水準を維持する（H28:16人） ・②就学援助世帯の割合：現在の水準を維持する（H28:12.7%） 	<ul style="list-style-type: none"> ①23人 ②13.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由による就学困難な児童・生徒及び学生への教育機会の均等化
H30年度主要事業		事業概要		
<ul style="list-style-type: none"> ・就学援助費支給事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育を円滑に実施するため、経済的な理由により、就学の困難な児童生徒（要保護及び準要保護者）に対して学用品費や給食費等の援助を行うとともに制度周知を図る。 ・新入生学用品費を入学前に支給できるよう事前支給を継続し、特に新小学校1年生の保護者に対して周知を図る。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金貸付事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の機会均等を図るため、高校進学者及び大学進学者を対象に、奨学金の貸付事業を実施する。 ・潜在的な対象者を掘り起こすため、制度の周知を図る。 			

2. 真庭を愛する「ひと」をつくる				
①人材育成の支援				
基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度KPI	事業効果
・小・中学生を対象に、市内の施設を利用した、地域の歴史・自然・文化を生かした学習事業を支援 ・多彩な真庭について他校の児童・生徒との体験交流を支援	・現状では、国内交流事業の申請のみであり、今後は制度の啓発や広報を積極的に行う必要がある。	・実施団体数：延15団体 ・参加人数：延450人	①4団体 ②213人	・活力ある地域づくりの原動力となる人材育成
H30年度主要事業		事業概要		
・市内、国内及び国際交流事業の経費支援	・各小学校PTA、スポーツ団体、文化団体、環境団体の児童・生徒が行う、市内・国内・国際交流事業に要する対象経費に対し補助をする。(真庭市人材育成支援事業補助金の活用)			
②地域に誇りをもつ子を育む風土づくり				
基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度KPI	事業効果
・地域の教育参画と子どもの地域貢献で好循環を生みだす ・地域に誇りを持ち、地域を担う意欲をもつ子どもを育てる	・学校と地域の連携、地域による学校支援は広がってきているが、見える化が図られていない。 ・取り組みへの参加の広がりが少ないため、参加機会を増やす必要がある。	・全国学力・学習状況調査結果で「地域の行事に参加していると答える割合：平成33年度75% (H28:74%)	72%	・地域全体で子どもを育む風土 ・子どもの地域への愛情の醸成 ・地域の活性化
H30年度主要事業		事業概要		
・地元企業と連携した学習事業	・望ましい職業観・勤労観を養うと共に、自己理解・人間関係構築力・ふるさとの良さ再発見等を目指し、キャリア教育の一環として中学校2年生全員を対象に市内事業所において職場体験活動を実施する。(6月～10月の3日間実施)			
・ふるさとを学び知る人づくり事業	・郷育として地域の良さを再発見するため、文化・歴史・産業・自然・行事等について調べ学習や体験学習等を通して、郷土を愛し誇りに思う心を醸成する。			
・次世代学習実践開発モデル事業	AR(拡張現実)を活用し、地域学習を通して学びに向かう力や思考力・判断力・表現力の育成に資するための実践研究を行う。活動を通して、地域への誇りと愛情の醸成を進める。モデル校の取組成果を市内全学校対象に公開する。			
③歴史と民俗文化の「郷土まにわ」Remodel(再構築)				
基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度KPI	事業効果
・地域の歴史、民俗文化に関する各種コンテンツを作成し、郷育を支援・推進 ・各地域の個性が光りつつ一体感のある「郷土まにわ」の再構築	・各地域において、歴史・民俗文化の伝承が不十分で、埋没している状態。 ・真庭市としての一体感の醸成・創出が求められている。	・①真庭市歴史講座開催数：5回/年 ・②出前講座開催数：1回/年 ・③まにわボックス発行部数：10冊/5年	①10回/年 ②4回/年 ③延1冊/5年	・郷土を大切に誇りに思う気持ちの醸成
H30年度主要事業		事業概要		
・各地域の実情に沿ったコンテンツの作成	・各地域での講座など、様々な機会を通じて、地域固有のコンテンツの充実を図っていく。 ・市民参画により市史跡「荒木山西塚・東塚古墳」の調査を行う(国庫補助事業)。			
・出前講座の開催、指導者の育成	・文化財担当職員が、小学校など各種団体の求めに応じて各種出前講座を開催する。			
・小・中学校での民俗芸能の伝習・披露支援	・国指定無形民俗文化財「大宮踊」保存会の保存・伝習活動に対し助成を行う。保存会では小学校等への指導を実施する。			
・地域歴史研究団体等への支援・連携	・地域歴史研究団体の活動を支援・育成することを目的とした、真庭市歴史講座・見学会等を開催する。また、団体と連携した調査・学習会を開催する。			
・「真庭市の文化財」「真庭市史料」の編集・刊行	・真庭市史料「戸村愛教日録」第4巻を300冊、蒜山郷土博物館図録「郷原漆器」600冊を編集・刊行する。			
・「まにわボックス」事業との連携による、地域横断的な文化財等の集成・評価	・「まにわボックス」刊行に関する調査・編集を行うボランティアの活動を支援する。			
・真庭市歴史講座等の開催	・蒜山郷土博物館で企画展講演会を2回、歴史講座を8回、開催する。 ・北房振興局と連携し、大谷・定古墳群等文化遺産伝承に向けた講座を開催する。			
・文化財の保護・修繕・利活用、見直し ・埋蔵文化財の保護(確認調査等)	・岡山県指定天然記念物「醍醐桜」、市指定文化財「社のスギ」の保全事業等を実施する。 ・真庭市指定文化財の見直しを進める。 ・市内での土木工事に際し、埋蔵文化財を適切に保護するため、必要に応じ確認調査等を行う(国庫補助事業)。 ・市長部局と共に、旧遷喬尋常小学校舎の利活用を検討する。			

3. 教育を地域で支える仕組みをつくる

①地域で学校を支援する仕組みづくり

基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度KPI	事業効果
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や児童生徒の保護者・学生・社会教育団体・NPO・企業等地域全体の参画・協力 ・支援内容や方針等についての合意形成（関係者により構成される協議会等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、3つの学校支援地域本部しか設立しておらず、取り組みを市内全域に広げる必要がある。 ・コーディネーターやボランティア等、人材確保が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①ボランティア総人数：250人/年 ・②取り組み学校数：8校/年 	<ul style="list-style-type: none"> ①180人 ②5校 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの学びの支援 ・地域住民の生涯学習・自己実現の支援 ・活動を通じた地域のつながり・絆の強化、地域の教育力の向上
H30年度主要事業		事業概要		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部事業の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・おかもやま子ども応援事業の一環として、学校支援地域本部（遷喬小学校、落合小学校区、北房小学校、美甘小学校、蒜山中学校区）を中心に実施する。他学区での協働本部の立ち上げを推奨していく。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員配置事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校に6名の部活動指導員を配置する。中学校教員の放課後に生徒に関わる時間や教材準備に関わる時間を生み出し、教員の働き方改革の一環とする。 			

②学校環境の適正化の推進（施設改善及び効率的運営）

基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度KPI	事業効果
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校施設の適正化～学校施設が備えるべき機能・規模・配置～」について実施計画を策定し、着実な環境整備及び運営改善を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の進行による「学校規模：集団規模」の縮小傾向 ・生活環境性能の陳腐化 ・給食施設の老朽化と調理員不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・①複式学級の解消：20%(H28:29%) ・②教育・学習環境整備計画（仮）の策定：平成29年度中 ・③共同調理場化：70%(H28:60% 18/30) 共同調理場による給食実施校/学校数 	<ul style="list-style-type: none"> ①29.1% ②未策定 ③60% (18/30校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を中心とした児童生徒の学習環境、生活環境、安全性の向上 ・学校給食施設の環境改善及び学校給食制度の持続
H30年度主要事業		事業概要		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の適正化 	<ul style="list-style-type: none"> ・二川小学校と湯原小学校の円滑な統合に向け準備を進める。小規模校・極小規模校については、学校環境について、保護者・地域と意見交換を実施する。小・中学校適正配置実施計画の再構築に向けた協議を進める。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の適正化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の児童生徒の生活の場としての環境整備の検討を進める。（冷房施設、トイレ乾式化、バリアフリー化等） ・中学校の普通教室と使用頻度の高い特別教室に空調設備を整備するため、設計業務を委託する。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食施設共同調理場化 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度に改正した真庭市小・中学校給食施設整備計画に基づき、勝山共同調理場の施設整備準備を行う。落合地区の共同調理場化に向け、協議を始める。 ・「地産地消」「公会計」「共同調理場化」など学校給食について、学校教職員とともに、その目的や長期的な方向性について、意見交換や協議を行い、学校給食経営推進体制づくりを図る。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食費公会計化 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な学校給食の運営のために、給食費の公会計化など学校給食経営推進体制づくりを図る。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食地産地消推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・真庭市内の地場産物の利用率を上げるよう地産地消に取り組む。学校給食現場と学校給食における地産地消の教育目的について共通の認識を形成するため、関係者との協議を行う。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・施設改善 	<ul style="list-style-type: none"> 北房小学校グラウンド整備・外構工事・空調和設備工事、遷喬・久世共同調理場空調機設置工事 川上小学校屋内運動場天井改修工事、八束小学校プールろ過機移設工事、落合小学校下水道接続工事 落合小学校北校舎床改修工事、天津小学校ガス設備改修工事、遷喬小学校プレイコート遊具修繕工事 勝山中学校水道管改修工事 			

③家庭教育の支援

基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度KPI	事業効果
<ul style="list-style-type: none"> ・親が子供に家庭内で言葉や生活習慣、コミュニケーションなど、生きていく上で必要なソーシャルスキルを身につける援助 	<ul style="list-style-type: none"> ・他市事例等を参考に、運用の土台作りの研究と支援員の現地研修や育成が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援チームの活動：20回/年 	<ul style="list-style-type: none"> 親プロ実施 23回 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援の充実や人材育成 ・学校・関係行政部局・子育て支援組織・地域とのつながりを強化 ・子育てに関する悩みや不安の課題解決 ・孤立しがちな家庭、仕事で忙しい家庭等に対する課題解決支援
H30年度主要事業		事業概要		
<ul style="list-style-type: none"> ・親育ち応援学習プログラムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援チームによる「親育ち応援プログラム」を実施する。 ・家庭教育支援チーム員が、学校や園などの参観日を利用して、ワークショップを実施する。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援員のスキルアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県等が実施する「親育ち応援プログラム」に関する研修会等へ、積極的に参加する。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターの後継者育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規家庭教育支援チーム員を確保し、「親育ち応援プログラム」に関する研修会等へ参加する。 			

4. 暮らしの中にある豊かさを感じる心と体を育む

①学びあうまちづくり

基本施策	現状と課題	重要業績評価指標（KPI）	H29年度KPI	事業効果
<ul style="list-style-type: none"> 子ども遊びボランティアの育成 様々な生涯学習講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 現在においても、市民が自ら行う生涯学習講座はあるが、活動数は減少傾向にある。 人材バンクの登録者を確保することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報紙掲載講座数：170講座 ②人材バンク登録者数：30人 	<ul style="list-style-type: none"> ①176講座 ②68人 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の手による生涯学習の推進 住民自らの生活の質の向上
事業概要				
H30年度主要事業	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの確保 各振興局単位でボランティアを確保し、生涯学習講座などに協力していただく。 市民自らが企画する生涯学習講座の推進 魅力のある講座を開催していく。 			

②図書館の整備

基本施策	現状と課題	重要業績評価指標（KPI）	H29年度KPI	事業効果
<ul style="list-style-type: none"> 地区図書館の運営を統括する中央図書館の整備、専任館長の配置、自動車文庫の運行 学校やまち並み図書館との連携を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 面積が広い真庭市において市民が本に触れる機会を確保するため、地区図書館の維持とともに、中央図書館を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1人当たり貸出冊数：10冊/年 	4.8冊	<ul style="list-style-type: none"> 本と出会う機会の増加により、読書の楽しさを実感 図書館の循環によるサービス向上 幅広い世代への図書サービスの提供 読書履歴の見える化による読書意欲の促進
事業概要				
H30年度主要事業	<ul style="list-style-type: none"> 学校やまち並み図書館との連携 建物の空きスペースに書架を設置し、自由に本が読める場所「まち並み図書館」を実施する企業・団体等を募り、真庭産材を使用した書架を作成し配布する。（N = 5台） 自動車文庫の運行 H30年度中の実施に向けて準備を行う。 魅力ある図書館行事の展開 7月～11月に真庭市内の図書館を巡り、書籍を借りるスタンプラリーを開催する。 地区図書館の充実 蒜山図書館の移転及び湯原図書館の充実についての検討 			

③市民主体の図書館運営

基本施策	現状と課題	重要業績評価指標（KPI）	H29年度KPI	事業効果
<ul style="list-style-type: none"> 「まにわ本クラブ」の活動分野を広げ、様々な場面で活躍することにより、読書の楽しさ・おもしろさを広く市民の皆様と共有し、“本の香りがするまちづくり”を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 一定の蔵書数もあり、様々なPR活動も行っているが、図書館を利用することにより、もっと市民の読書意欲を引き出し、機運醸成が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①まにわ本クラブの登録者数：30人 ②読み聞かせ、図書館利用教育講座回数：100回/年 	<ul style="list-style-type: none"> ①26人 ②30回 	<ul style="list-style-type: none"> 市民と図書館の連携推進 市民の図書館や読書に対する意識の高揚 子どもが小さい頃から本に親しむ 市民ボランティアの活動による地域の活性化、教育力の向上
事業概要				
H30年度主要事業	<ul style="list-style-type: none"> 図書館ボランティア組織のあり方の再検討 図書だよりでの本の紹介や各図書館での蔵書整理等の活動を促進するため、図書館ボランティア組織のあり方を再検討し、図書館活動に協力していただくサポーター活動の活性化を目指す。 図書館だよりの発行 年6回、図書館だよりを発行する。 子育て世代へ読み聞かせ講座実施 幼稚園・保育園・こども園行事を利用した講座を15か所で開催する。 乳幼児健診会場による講座を10回開催する。 小・中学生へ図書館利用教育実施 小・中学生が、実際に図書館に行き、図書館の利用方法や調べ学習などを図書館司書から学ぶ図書館利用教育を実施する。（10校） 			

④本の香りがするまちづくり

基本施策	現状と課題	重要業績評価指標（KPI）	H29年度KPI	事業効果
<ul style="list-style-type: none"> 図書館を中心としたまちづくり 図書館運営に参画意欲をもつ市民を中心に、広く市民の間で読書の面白さを共有し、市民が主役となる図書館活用の機運を醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 一人当たり貸出冊数が県平均を大きく下回っており、一定の蔵書数もあり、様々なPR活動も行っているが、さらに市民の読書意欲を引き出す機運醸成が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 司書資格取得者：延10人 	4名	<ul style="list-style-type: none"> 図書館司書資格取得者の育成 市民による図書館運営の推進
事業概要				
H30年度主要事業	<ul style="list-style-type: none"> 司書資格取得の補助 司書資格取得費用を補助する。資格取得後は、真庭市立図書館実施事業への協力者として登録し、真庭市立図書館をサポートし、図書サービスの向上を図る。 			

5. 市長部局と連携して取り組む

①生活の中で文化を楽しむ

基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度KPI	事業効果
真庭市の文化レベルの向上	・文化団体や芸術文化に携わる人の高齢化が進んでいる。 ・芸術文化への参加が減少している。	・①芸術アウトリーチ事業への参加校：60校 ・②文化振興事業参加者：5,000人 ・③多様な文化交流事業開催回数：10回	①29校 ②885人 ③3回	・子どもの文化力の向上 ・地域文化の多様化 ・文化の担い手育成
H30年度主要事業		事業概要		
・文化芸術鑑賞事業 ・文化芸術体験事業	学校などにアーティストを派遣し、近い距離で体感できる派遣型の事業と、設備の整ったホールで、実際の公演に近い形を体験できる鑑賞型の事業を行うもの。質の高い舞台芸術、美術作品などに触れる機会を提供することで文化芸術への関心を高め、感性や能力を育成する。			
・文化振興事業	・一流アーティストの真庭公演を実施する。 ○公演事業 ・TAO（和太鼓）公演			
・多様な文化交流事業	・地域資源を活用し、文化・芸術分野で地域住民と都市部のアスリート、芸術家や工芸家、大学等と連携しながら、スポーツ・文化・芸術に関するイベントやワークショップなどの交流事業を実施し、地域住民が自分たちの地域資源の素晴らしさを再認識し、さらなる郷土愛をはぐくむ環境づくりを計画的に行っていく。 ○文化芸術創造都市としての取り組み ・創造都市ネットワーク日本への参加、・他地域との情報交換や交流 ○スポーツ・文化・芸術による地域の活性化の取り組み ・真庭映像フェスティバル、・勝山クラフト市 ○子どもが鑑賞、体験できる取組 ・親子コンサート			

②運動・スポーツ参加環境の向上

基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度KPI	事業効果
学校体育・地域スポーツ・競技スポーツの連携によるスポーツ施設の利用促進	・学校体育・・・生徒数減少等に伴う衰退傾向にある。 ・地域スポーツ・・・児童数減少と相まってスポ少加入者が減少している。働き盛り世代のスポーツ参加が二極化している。 ・競技スポーツ・・・指導者人材のバトンタッチが進んでおらず、一部の指導者に責務が集中している。	・①働き盛り世代（20代～50代）のスポーツライフ率：平成33年度35%（平成33年度に調査予定） 毎年度の事業効果確認のため、H29年度から以下のKPIを追加する。 ・②スポーツ・レクリエーション活動参加者数：5000人/5年 ・③幼児体操教室参加者のアンケートで参加してよかったと回答した保護者の割合：100%（毎年） ・④スポーツ応援事業参加者数：1000人/5年	①未測定 ②900人 ③100% ④550人	・スポーツ参加機会の創出 ・スポーツを「する人」「支える人」の増加 ・スポーツ施設の利用増加
H30年度主要事業		事業概要		
・スポーツ・レクリエーション活動推進事業	・各地区で開催させるニュースポーツ大会等に対する補助により、事業継続と地域活性化を図る。			
・幼児体操教室	・就学前の幼児を対象に、マットや鉄棒・跳び箱といった器械運動を楽しみながら身体支配能力の育成を図る。（定員20名、5月から2月までの全38回予定）			
・スポーツ応援事業	・子供や普段スポーツに触れる機会の少ない世代を対象に、スポーツに触れる機会の創出を図る。（上半期1回、下半期1回の開催予定）			

③人権意識の啓発・教育

基本施策	現状と課題	重要業績評価指標 (KPI)	H29年度 K P I	事業効果
市民の人権意識の向上	・年間を通じて学校二教室など啓発活動を行っているが、多様化する人権問題において、正しい理解と認識を広く周知してもらえるような活動が必要である。	・①人権作品への参加校：34校（小中高）/年 ・②市民講座への参加者：500人/年 ・③人権講演会への参加者：500人/年（年1回）	①26校 ②約450人 ③約300人	・子どもたちへの意識向上 ・地域に根差した問題共有 ・市民への幅広い意識の向上
H30年度主要事業		事業概要		
・研修事業	・市民を対象にした人権講座を開催する。 ・各学校 P T A で人権研修会を開催する。 ・指導者研修へ参加する。 ・学校での教職員研修を開催する。			
・広報事業	・人権作品（作文・ポスター）募集し表彰する。 ・人権作品集を刊行する。（年1回）			
・啓発事業	・年1回、人権に関する課題をテーマとした講演会を開催する。 ・人権啓発パンフレット「ふれあい」を作成し、広報紙とともに配布する。			

④放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な取り組み				
基本施策	現状と課題	重要業績評価指標（KPI）	H29年度KPI	事業効果
放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携	・市内の放課後児童クラブ（12クラブ）と放課後子ども教室（7教室）は、それぞれ別々に活動しており、一体的な放課後対策ができていない。	・放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な取り組み：1か所	1ヶ所 北房地区での試験的取り組み開始予定	・包括的な放課後対策 ・安全・安心な居場所の確保 ・地域ボランティアの参画
H30年度主要事業		事業概要		
・共通プログラムの作成	・放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な取り組み事業を実施する。（年5回）			
・コーディネーターの確保・育成	・事業実施に必要なコーディネーターを確保し、育成する。情報交換、研修等の実施（年数回）			
・地域の人材確保	・地域住民によるボランティアを確保し、地域ボランティアの参画を促す。（述べ20人）			